

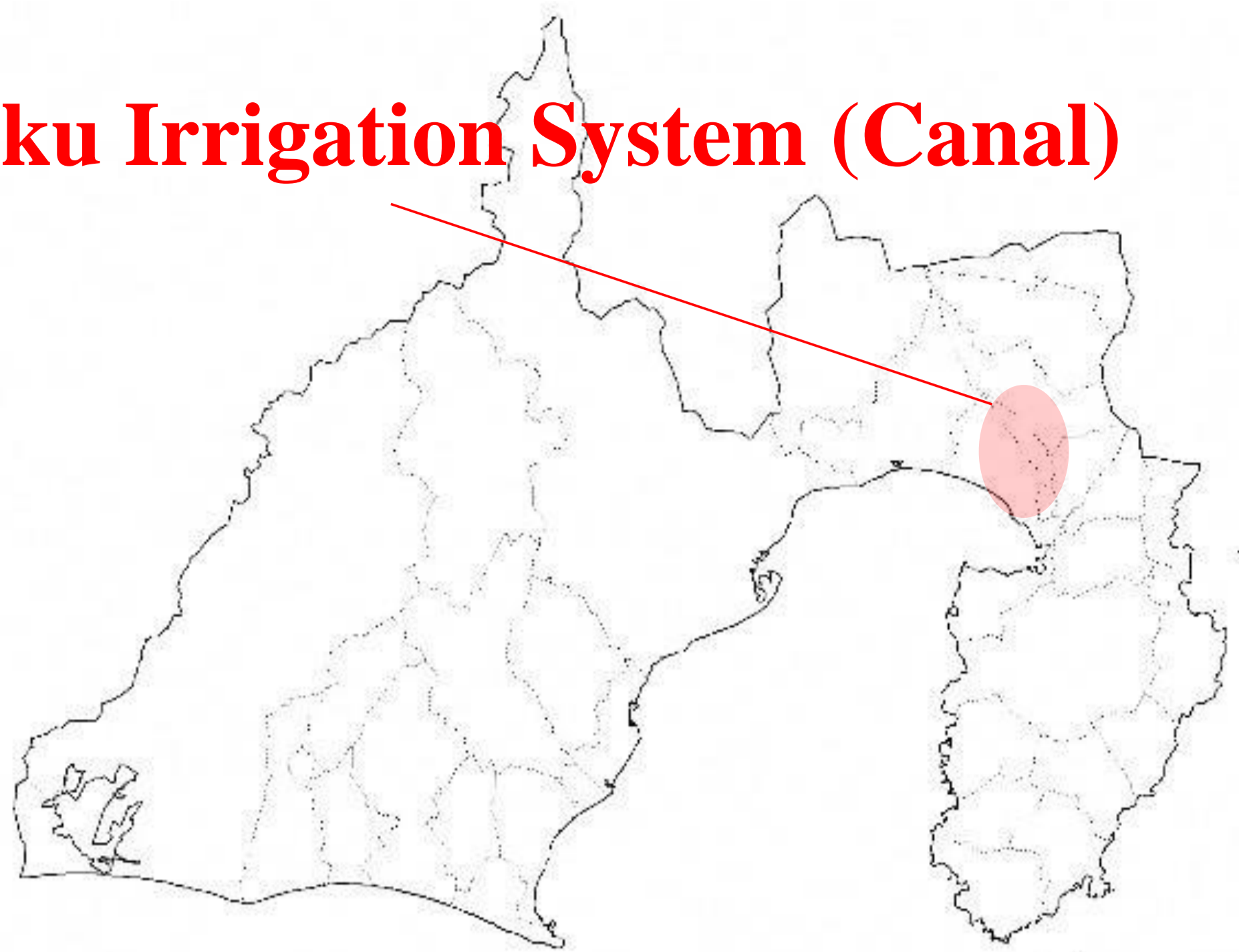
世界かんがい施設遺産

ほんじゅくようすい

本宿用水

[静岡県・長泉町]

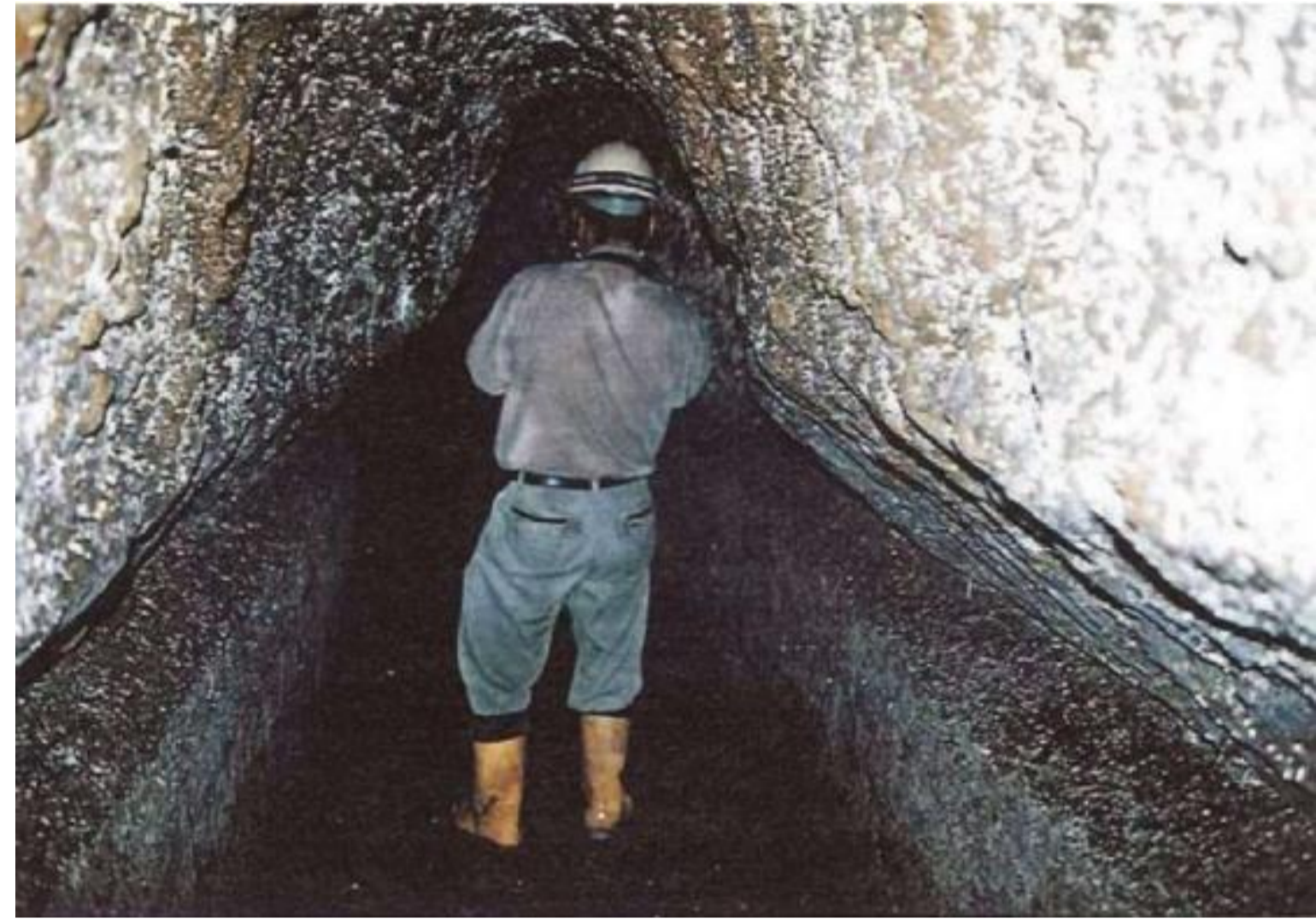
Honjuku Irrigation System (Canal)



～隧道と水路を造った日本の水利掘削技術の手本～



本宿用水取水堰・黄瀬川下流側よりの全景



1603年完成当時の隧道（手掘り）
甲州流水利法（蜘蛛巣間切）を活用

- 本宿用水は、黄瀬川にある鮎壺の滝の上部に位置する新井堰から取水した、延長540mの隧道と480mの水路で造られたかんがい施設である。
- 1603年に完成し、日本における「取水技術・通水技術・配水技術」の先進的な技術が集結した「規範」と評価できる。
- 黄瀬川流域は、川底が深く、降水時には暴れ川となり、川水を取水することが技術的に難しく、16世紀までは稲作が栽培できない貧困地帯であった。そこで、1601年、徳川家康から任命を受けた、領主・興国寺城主の天野三郎兵衛康景が、当時最先端の水利土木技術である「甲州流水利法」を駆使して、整備し、安定的な農業経営が確立された。
- 本宿用水の隧道通水の水利技術や鉄のノミを使用した人力による掘削技術、行燈をを使う測量技術などは、67年後に造られた「深良用水」（平成26年世界かんがい施設遺産登録）建設時の手本として活かされている。
- 完成から420年経過した現在も、町民との連携・協働により、的確に維持管理・使用されてきており、本宿地域の水田地帯に安定的にかんがい用水を供給している。今では、防火用水や環境維持用水など、豊かな地域社会と農業の発展を支える、重要な「水資源」として大切に保全管理されている。



凡例
■ 受益地
■ 本宿用水

1993年当時の本宿用水水路図



掘削道具のノミと測量機器の行燈



1998年補修当時の隧道（コンクリート巻立て）

問い合わせ先 長泉町産業振興課 TEL. 055-989-5516